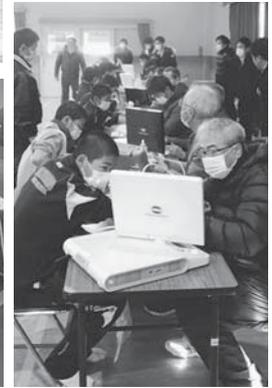
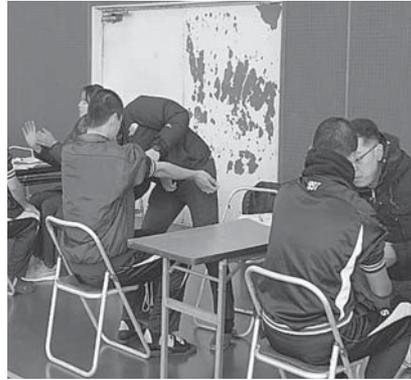




NPO法人 
 野球医療サポート栃木

会報誌

第3号
 (令和元年度)



目次

- | | |
|---|---|
| 1. 栃木県広域野球検診の継続
小野 誠先生 …………… 2 | 6. 離断性骨軟骨炎のリハビリテーションを経験して思うこと
～野球検診をオフシーズンに行う事の重要性～
渡部 健太郎先生 …… 7 |
| 2. 野球医療サポート栃木会報誌3号に寄せて
藤田 光明先生 …… 3 | 7. 野球検診と日々の臨床を通して感じたこと
～栃木の野球がさらに盛り上がるように～
宇賀神 允生先生 …… 8 |
| 3. 2018年度の栃木県広域野球検診を終えて
飯島 裕生先生 …… 4 | 8. 2018年度 栃木県広域野球検診の報告
一過去の検診結果と合わせてー
飯島 裕生先生 …… 9 |
| 4. 野球選手の治療のために
伊澤 一彦先生 …… 5 | 9. 野球医療サポート栃木 ホームページのご案内 … 10 |
| 5. 検診の裏方として思うこと
野澤 健二先生 …… 6 | 10. 編集後記 …………… 10 |



栃木県広域野球検診の継続

栃木県臨床整形外科医会 会長 小野 誠

栃木県青少年野球協議会の皆様、NPO法人・野球医療サポート栃木（以下、MSBP栃木）の皆様、平成30年度も栃木県広域野球検診に栃木県臨床整形外科医会（以下、TCOS）として参加させていただき、心から感謝申し上げます。

平成30年度は検診参加3年目となり、以前の2年の経験から検診場所や手順にも慣れてエコー検査もスムーズになりました。一人当たりにかかる時間も短縮されて、何人かの離断性骨軟骨炎（以下、OCD）を見つける事が出来ました。さらなるスピードアップと確実性を目指し検診協力医が増加すれば、検診対象人数を拡大して検診カバー率を上昇する事が出来ると思います。

また、野球検診2次検診医療機関として、野球における障害で紹介来院された選手に、理学療法士（以下、PT）の先生による治療を行い、著しい症状の改善を得ることが多数の症例で経験が出来ました。各障害における理学所見の詳細や病態は複雑ではありますが、少しずつ系統立てて分類して治療方法を確立していきたいと思います。特に、OCDの選手の現場復帰の判断は非常に難しいですが、いくつかの症例から選手と両親とよく相談して、投球中止といつ再開してよいかを説明しています。一人でも多くのOCDの選手が、手術治療を受けることなく選手として復帰して、活躍出来るようにしていきたいです。今年度は、野球障害の症例を研究会で発表して、自分自身のレベルアップとモチベーションの向上が出来ればと思います。

昨年度は、野球障害の治療を積極的に行っているPTや作業療法士（以下、OT）の先生から、野球障害に対する運動器リハビリを行うための講義を小野整形外科にて3回開催しました。各回ともたくさんの参加者があり、熱心に講義を受けていました。出来れば来年度も同様な開催して、栃木県全体の野球障害治療のスキルアップを図りたいと思います。

栃木県の野球検診体制は、県高野連関係の方とMSBP栃木の先生方との全面的な協力により、TCOSもスムーズに検診事業に参加協力させていただいております。令和元年度は広域検診4年目を迎えますが、これから10年20年と積極的に検診を継続する事で、新たな病態や治療法の発見があるものと確信しています。このような素晴らしい野球検診システムの維持を図るためにもTCOSは全力をあげて協力させていただきたいと思っています。栃木県の野球検診の精度の向上と治療成績の向上その後のフォローアップが充実して、広域検診事業がますます発展していく事を祈念しています。



野球医療サポート栃木会報誌3号に寄せて

栃木県高等学校野球連盟 藤田 光明

今年2月に、新潟県が「春季大会から投球制限を実施する」と発表したことは大きな物議を醸し、以来、投球制限について、全国的に大きな問題としてとりあげられるようになりました。新潟での実施は見送られたとはいえ、その是々非々は現在でも大きな問題となっています。選手の育成と目先の勝利。様々な思いの中、今後も多くの議論が展開されていくと思われませんが、その行方を注意深く見守っていくとともに、本県としても、よりよい選択をしていかなければならないと考えております。その際、特に「医療サポート栃木」の先生方からのご助言、アドバイスには大きな期待を寄せているところです。

近年の、少子化によるスポーツ人口、特に中学・学童の野球人口減少が甚だしいという現状に鑑み、本県では地元栃木の野球選手を育成するために、「栃木県青少年野球団体協議会」が平成27年3月に設立され、以来、学童期から社会人まで選手が継続して野球が続けられる環境を調えることが野球振興と野球力向上につながるという考えのもと、関係各位のご協力により幾つかの取り組みがなされてまいりました。その中で「医療サポート栃木」に果たしていただいた、その役割はとても大きなものがあります。

小中高生を対象とした野球肘肩検診は、一昨年は5地区全県で約2000人の実施でしたが、昨年は全県を4地区に分け、「広域野球肘肩検診：メディカルチェック」として実施、児童生徒を含めた検診約1400人、指導者・保護者800名に対し医療サポート栃木の取り組みと障害についての講演という形で実施していただきました。朝日新聞と日本高野連でも「高校野球200年構想」取組みの一貫として、「普及」「振興」「けが予防」「育成」「基礎作り」の5目標を掲げて様々な取り組みを行っていますが、その「けが予防」項目について、昨年実施されたけが予防講習会は全国で23回、高校生部員と小中高指導者の参加数は2941人、肘肩検診の実施は16連盟、全国で26回開催され、その受診者は小中学生合わせて4917人であった旨の報告がありました。その全国の実施状況と照らして考えてみても、栃木県の取り組みは、その人数からいっても、まさに全国に誇れる取り組みであると、大変自負できるものであると感じています。特に県内全てのチームに参加を呼びかけ、継続的に実施できていることについては、医療サポート栃木に関わる皆様の熱意と献身的な取り組みのおかげと、本当に感謝申し上げます。

今後、高校野球が子ども達の憧れ・目標となれるように、子ども達に対してきっかけづくりをすることとともに、学童期の成長過程での障害の予防につながる肘肩検診を実施して上までつながるよう支援をすることは、今後も是非継続して実施していくことで大きな効果をもたらしてくれるものと考えます。新しい時代を迎え、現状をしっかりと捉えて、さらに栃木県の高校野球のレベルをアップしていくために、今後も医療サポート栃木の先生方からのご支援をよろしくお願いいたします。



2018年度の栃木県広域野球検診を終えて

野球医療サポート栃木 理事長 飯島 裕生

昨年度よりNPO法人野球医療サポート栃木の理事長という立場で検診に臨ませて頂き、大変貴重な経験をさせてもらっております。栃木県内で広域検診を開始して3年目となりましたが、2018年度も栃木県高校野球連盟の指揮の下で非常に多くの方々のご協力により無事に検診が終了したことを大変感謝致します。

2018年度の新しい試みとして、これまで5地域で行っていた検診を4地域にまとめ、更に、1日は2会場同時に行うことで、合計3日間で検診を行いました。これは、①出来るだけスタッフの負担を減らすこと、②スタッフが検診に慣れてきていること、③参加スタッフ数が増えてきていることなどを考慮して行いました。この2会場での開催方式は特に問題なくスムーズに行うことが出来、今後も採用して行ければと思います。このような試みは野球検診を継続して行う上でも重要なことと考えています。

また、検診内容に関してですが、2017年度は投球時の“しびれ”に関する調査を行いました。昨年度の会報誌にも掲載しましたが、小学生で6%、中学生で12%、高校生では17%と予想していたよりも多くの投球時しびれを自覚する選手がいることが分かりました。しびれは、野球経験年数、肘内側障害、肩甲帯機能低下などとの関連も示唆され、野球障害を診るうえで重要な症候の一つと改めて認識しています。一方で、2018年度は“関節弛緩性(関節の軟らかさ)”と野球障害に関して調査を行いました。こちらはまだ考察段階ではありますが、男女間や野球障害との関連などのデータ解析を行っています。また、高校生に関しては、試合時の不安、緊張の程度を調査し、ポジションや野球肩の既往の有無により、不安、緊張の程度が異なる結果がみられました。検診を通して栃木県で得られた貴重な検診データを指導者や選手に還元し、少しでも野球障害の予防活動に役立つことが出来ればと考えております。

理事長という立場になり、新聞社などのメディアからも意見を求められることが何度かありました。よく聞かれる質問として「野球障害を減らすために投球制限は必要か？」になります。メディカルに携わり、野球障害で苦しんでいる多くの選手を診ている者としては、やはり投球制限は必要と考えています。特に成長期(小学生から中学生)の過度な投球は、子供たちの身体に後遺症を残す危険性があります。子供たちが安全に楽しく野球する環境をつくることは大人たちの責任と感じています。投球制限のルール化に関しては、明確に全国的な統一見解が出ていない状況ではありますが、これからも現場の指導者の方々と知識の共有、連携をとって考え続けていきたいと思っております。

2019年度も「責任感」と「継続」を大切にして、野球検診を行って行きます。引き続き野球医療サポート栃木へのご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い致します。



野球選手の治療のために

薬師寺運動器クリニック 伊澤 一彦

MSBPの活動が始まり数年が経過しました。

初めは興味を持って野球肘検診に参加しても、徐々に関心が薄れ、数年経つと特定の人だけが残り、野球肘検診の継続は大変である、という話を他県の先生にお聞きしたことがあります。

栃木でも同様の事態にならぬよう、考えていかなければと思うところです。

野球選手への関わり方は野球肘検診だけではないのですが、検診の参加だけでは、野球の現場の指導者や選手からは、治療の施設としての理解は得られないでしょう。

ある一定レベルの野球選手の治療が県内各地で行えることが理想ですが、現実にはそれには程遠く、距離的にも時間的にも受診できない選手が多いように思います。

野球の現場が求めるのは選手の早期復帰なので、いかに早く治療が進められるかという点について、医療と野球の現場側の意識の共有が必要と感じています。県内の野球の指導者・選手や野球選手の治療に関わる医療従事者に向けた情報発信なり情報交換なりが今後行われるべきだろうと思います。

野球選手の治療の主体はリハビリテーションであり、理学療法士にも日々の診療で野球選手の症例をどんどん経験していただき、治療のテクニック、ノウハウや苦労した点などを共有できるとよいですし、これからは理学療法士もエコーを使った評価が求められるはずで、エコーの勉強も必要と思います。ただ、リハビリテーションをオーダーするのが医師なので、野球選手の医療を熱心に行う医師が増えない限り、理学療法士も日常診療で野球の症例を経験する場を作りづらいでしょう。

野球選手が集まる整形外科の施設になるためには、野球の現場と顔の見える関係を構築していくべきで、信頼関係がなければ指導者も受診をすすめてくれないと思われます。野球肘検診だけでなく、いろいろな野球団体の大会のサポート、あるいは自分がどこかのチームと関わりを持つかどうかということが、信頼関係の構築に必要でしょう。そのためにプライベートの時間を割いて、練習の見学や試合の観戦も必要でしょうし、現場で指導者や選手と話をする時間もあっていいと思います。

治療のためには、さらに野球に関わる肩・肘・スポーツ・エコー・リハビリテーション関連の学会や研究会に行き知識や人脈を増やす必要もあります。

同じような志で野球選手の治療に協力をしていただける医師が増えていくと幸いです。特に県の北部や芳賀地区の先生が増えることを期待しています。

スポーツの認定医といっているだけで選手は受診しないはずで、運動器リハビリテーションが行えない施設では治療にならないものと自覚しておくべきでしょうし、野球肘検診の二次検診施設の必要条件としては、エコーもリハビリテーションもできることが挙げられるでしょう。

野球選手の医療に栃木の独自性を出していければいいと思う次第です。



検診の裏方として思うこと

福田記念病院 リハビリテーション科 野澤 健二

皆様、こんにちは真岡市にあります福田記念病院リハビリ室の野澤と申します。野球検診の際には、ここ数年は、主に事前準備と会場運営をさせていただいています。

MSBP栃木の野球肘検診に関らせていただくようになって6年がたちました。ここまで活動を続けて来る事ができたのは、高校野球連盟をはじめ多くの野球関係者、医療スタッフのご協力があればこそだと思います。年々、検診の参加人数が増えて、野球検診の認知度も向上してきていると思われます。その参加人数の増加に合わせて会場をご用意してくださる高野連の先生方には本当に頭が下がります。

医療側も協力いただけるスタッフ数が増えて、H30年度の検診では栃木県北部と南西部での2箇所同時開催が出来るまでになりました。改めて様々な方のご協力に感謝申し上げます。

毎年、検診時の様子を見ていて思うことがあります。検診開始当初は、肘の痛みを自分からは訴えない選手が多いように感じました。何を尋ねても「大丈夫です！」と答える選手や顔を歪めながらも「大丈夫です！」という選手が多かったです。おそらく、「痛いのが分かったら試合に出られなくなる」「監督に知られたら試合に出してもらえなくなる」などの気持ちが働いての「大丈夫です」なのだと思います。

野球肘検診の会場では、肘検診とは別に「野球医学教室」というものを監督・コーチ等の指導者や保護者向けに開催されています。その中で話される内容には、小中学生での肩や肘の障害が今後の生活の中でどのような影響を及ぼしてくるのかや「子供の異変に気づくこと」「痛みを無視しないこと」「訴えに耳を傾けること」などが含まれています。その甲斐あってか、最近の検診では、監督など指導者の方が選手の体調や痛みに気を使っている印象です。それに合わせて選手たちも痛みの訴えをこれまでの「大丈夫」で片付けることなく指導者や保護者に教えてくれるようになって来ているようです。

野球検診は、離断性骨軟骨炎（OCD）を早期に発見することが第一の目的に挙げられると思います。MSBP栃木の野球検診では、OCDの早期発見はもちろんのこと、肘の圧痛やその他野球を行う上での身体のチェックも行います。また野球での身体の使い方、障害予防の仕方を教える運動指導もセットで行っています。肘の問題が無い選手も「肘に問題なかった！良かった！」で終わりではなく、今後の障害予防について学ぶことが出来たり、どのように体を使うとパフォーマンスが出やすいのか等を教えてもらえたりするような野球検診となるように、これまで企画させていただきました。

夏の高校野球も昨年100回記念大会が行われました。今年からはまた新たな100年の幕開けです。時代も平成から令和へと変わりました。私たちMSBPの検診活動もまた、新たな要素を取り入れて、「参加すると為になる」「参加すると楽しい」「参加したい」と言われる様な野球検診の場を企画できればと思います。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



離断性骨軟骨炎のリハビリテーションを経験して思うこと ～野球検診をオフシーズンに行う事の重要性～

とちぎメディカルセンターしもつが リハビリテーション科
渡部 健太郎

2013年より始めました『野球医療サポート栃木』の野球肘検診は2019年度で7年目に入ります。私自身2017年度から野球肘検診活動に参加する機会を得て3年目になりますがオフシーズンに検診を行なうことは医療現場、スポーツ現場のどちらからみても重要だと感じています。

野球肘検診の目的のひとつに離断性骨軟骨炎（以下、OCD）の早期発見が挙げられます。痛みや可動域低下の症状が出る場合には既に重症化していることが多く手術が必要となることからです。初期段階で発見されれば、休養期間を設けて手術することなくプレー再開できる可能性もあり早期発見が大変重要な怪我です。OCDの術後平均競技復帰時期は6か月前後とされていますので、シーズン中にOCDが見つかった場合は怪我を押してプレーし続けるか、翌シーズンまで治療に専念することになります。こういった選手と病院で出会うときには私も悲しい気持ちになりますし、選手は私以上に悲しく落ち込んでいます。

オフシーズン中に手術を行った場合、適切なリハビリテーションを行う事で次シーズンの夏大会に間に合わせる事が可能になります。検診でOCDが見つかった選手のリハビリテーションに関わる時、選手も親御さんも少なからず不安を抱えたまま手術に向かいます。手術を終え、ボールを投げ始めるまでの数か月間はバットやボールを使用した練習参加はできませんが、リハビリテーションを通して自分の身体と向き合い野球に必要なトレーニングを行うことで練習に合流した時に一段と良い選手になれるよう関わっています。投球が許可されると選手たちは明るく自信に満ちた表情に変わります。遠投が出来、守備練習に参加できるようになるとリハビリテーションも最終段階です。私自身、運動内容よりも試合結果が気になってしまうこともしばしばです。「大会がんばってね」この一言を選手に言えることがたまらなくうれしく感じるので。楽しむため、勝つため、人間力を育むため、野球に取り組む理由は様々だと思いますが、怪我が野球離れの要因にならずに済むよう検診が永続出来ることを願います。

最後になりますが、野球医療サポート栃木の活動が行えているのも関係者皆様のご理解ご協力あってのことと存じます。検診活動が栃木県の野球選手たちを支え、心と体を育む一助となりますよう精進してまいります。



野球検診と日々の臨床を通して感じたこと ～栃木の野球がさらに盛り上がるように～

石橋総合病院 リハビリテーション科 宇賀神 允

野球は日本の国民的スポーツのひとつであり、競技人口は約500万～600万人とされています。そのなかで大半の選手が学童から競技を開始する点が我が国の特徴であると思います。しかし、成長期での過度な負荷は、骨軟骨障害をきたし重症例では変形性関節症を呈してしまい、日常生活にも支障が及んでいる選手もいます。そんな選手を一人でも減らすためには、早期発見・治療が大切であり、そこに検診の重要性を感じています。現在、高校野球においても球数制限やタイブレーク制を設けるようになってきており、障害を予防するということが重要視されています。そのような流れから見ても現代のスポーツ界では障害を予防するということが重要な時代となってきています。

私が普段、病院で野球選手をリハビリしていて、「もっと早く来てくれればこんなに長引かずに済んだのに。」や「よくこの身体の状態プレーしていたな。」と思うことが未だにあります。このような現状を打開する方法として、やはり現場との連携が重要ではないかと考えます。現場と医療の繋がりを作るためにも検診の場を活用し、ネットワークを構築していけたらより充実したサポートが行えると思っています。

また他にも、肩や肘を痛めた選手が再発し再受診してきます。身体機能が改善し、病院では痛みがなく腕が振れてネットスローが行えても、実際に練習や試合などでは条件が変わる為痛めてしまう。局所の痛みを軽減・消失させるようなメディカルリハビリから、より実戦に近い動作を行っていくアスレティックリハビリへの移行が課題であると感じております。現場レベルでの改善、120%での競技復帰が我々リハビリスタッフの使命であります。それを可能にするのも、現場との繋がりがあるからこそだと考えます。

最後になりますが、痛みがあると満足いくプレーはできず、ベストを尽くせません。悔いが残らないよう少しでもお手伝いできたなら嬉しいです。現在7年目を迎えるMSBP栃木の野球肘検診にて、小・中学生の頃に検診を受けた子供たちが高校野球で活躍している頃です。2016年夏に作新学院が全国選手権大会を優勝し、栃木県が大いに盛り上がったことは記憶に新しいことと思います。“栃木県＝野球が盛り上がっている”を継続できるよう全面的に、全力でサポートしていけたら幸いです。

栃木を最もアツい夏に！！

2018年度 栃木県広域野球検診の報告 —過去の検診結果と合わせて—

野球医療サポート栃木 理事長 飯島 裕生

1) 2018年度野球検診の日程、参加人数

	小山・栃木地区 2018/12/9 小山北桜高校	県北(塩谷/那須)・上都賀地区 2018/12/16 那須拓陽高校	佐野・足利地区 2018/12/16 足利市総合運動公園 体育センター	広域宇都宮・芳賀地区 2019/1/27 宇都宮高校	合計
小学生	226	100	102	242	791
中学生	198	80	117	122	517
高校生	—	41	54	26	121
選手合計	424	221	273	390	1308

2) 活動内容

- ・事前アンケート
- ・スポーツ競技不安テスト (Sport Competition Anxiety Test) (高校生対象)
- ・肘理学所見 (圧痛部位、外反ストレステスト、可動域制限の有無)
- ・Carter test (関節弛緩性テスト) (小中学生対象)
- ・超音波検査：肘離断性骨軟骨炎 (OCD) の評価 (小中学生対象)
- ・肩甲帯 (肩甲骨引き寄せテスト)、下肢のコンディショニング評価 (高校生対象)
- ・ストレッチ指導
- ・指導者・保護者への講習会

3) 野球障害の割合 (2016年度、2017年度の結果と合わせて)

①小学生・中学生における野球障害

	選手数	肘内側障害	OCD	肩障害	投球時しびれ
2016年度	1363名	16.3%	3.3%	8.7%	10.4%
2017年度	1347名	6.3%	2.9%	4.1%	7.6%
2018年度	1187名	7.3%	2.5%	2.1%	7.7%

②高校生における野球障害

	選手数	肘障害	肩障害	投球時しびれ
2016年度	302名	24.1%	18.0%	26.0%
2017年度	236名	19.9%	15.5%	17.3%
2018年度	121名	20.0%	10.4%	13.6%

野球医療サポート栃木 ホームページのご案内



☆野球医療サポート栃木のホームページも随時更新しております。
是非ご覧ください。

編集後記

野球医療サポート栃木 理事長 飯島裕生

今年度も皆様にご協力頂き、野球医療サポート栃木会報誌の第3号を無事に発刊することが出来ました。大変ありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

この原稿を書いている時期が、第101回全国高校野球栃木県大会の開幕時期と重なり、開会式にも参加させて頂きましたが、改めて高校野球の歴史や伝統、また選手たちの熱い気持ちを感じる事が出来ました。選手宣誓では、宇都宮高校の岸快晴主将が「野球愛」を述べ、100年を超す高校野球で新たな一歩を踏み出す決意を力強く誓っていました。非常に厳粛な開会式であり、小学生、中学生の選手達にも是非会場で見てもらいたいと感じました。まさに野球はスポーツを超えた人間育成、人間教育に大きな影響を与える日本の文化であることを再認識しました。

このような素晴らしい野球というスポーツへ医療という立場で携わらせて頂くことを本当にありがとうございます。私たち医療者はあくまで黒子の立場であるとは思いますが、今後も栃木県内の野球障害の予防、治療に少しでもご協力出来ればと思います。

これからも栃木県内の広域野球検診を継続して行えるように、現場との連携を大切に、精進して行きたいと思っております。引き続き野球医療サポート栃木へのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

発行・編集 NPO法人野球医療サポート栃木
事務局：自治医科大学 整形外科学教室
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL：0285-58-7374

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷
〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21
TEL：028-662-2511(代)

かけがえのない命の手助け…



『人と医療』のパートナー

サンメディックス株式会社

本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-2-1
TEL 03-3231-6510 FAX 03-3231-6512
門前仲町別館 〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-6 HASEMANビル6F
TEL 03-5639-3431 FAX 03-3643-4110

- | | | | | | |
|------------------------------------|-----------------|---------------------------------|----------------------|---------------------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> 宇都宮支店 | 〒320-0074 | 栃木県宇都宮市細谷町388-1 | TEL: 028-616-1580(代) | FAX: 028-623-7350 | |
| <input type="checkbox"/> 東京第一支店 | 〒179-0075 | 東京都練馬区高松6-35-15 | TEL: 03-5923-6235(代) | FAX: 03-5393-3057 | |
| <input type="checkbox"/> 東京第二支店 | 〒130-0014 | 東京都墨田区亀沢4-17-12 | TEL: 03-5619-4551(代) | FAX: 03-6859-0016 | |
| <input type="checkbox"/> 東京第三支店 | 〒168-0063 | 東京都杉並区和泉1-22-19 | TEL: 03-6680-0460(代) | FAX: 03-6680-0538 | |
| <input type="checkbox"/> 横浜支店 | 〒240-0006 | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134 | TEL: 045-348-7260(代) | FAX: 045-348-7261 | |
| <input type="checkbox"/> 相模原支店 | 〒252-0236 | 神奈川県相模原市中央区富士見6-15-2 | TEL: 042-756-4234(代) | FAX: 042-776-9092 | |
| <input type="checkbox"/> 首都圏物流センター | 〒143-0006 | 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センターA棟3F | TEL: 03-5764-5110(代) | FAX: 03-5764-5119 | |
| <input type="checkbox"/> 小山営業所 | 0285-30-3388(代) | <input type="checkbox"/> 埼玉営業所 | 048-640-6621(代) | <input type="checkbox"/> 厚木営業所 | 046-296-2822(代) |
| <input type="checkbox"/> 佐野営業所 | 0283-21-1007(代) | <input type="checkbox"/> 埼玉西営業所 | 0493-21-7310(代) | <input type="checkbox"/> 山梨出張所 | 055-280-8015(代) |
| <input type="checkbox"/> 水戸営業所 | 029-305-6125(代) | <input type="checkbox"/> 千葉営業所 | 043-244-6322(代) | <input type="checkbox"/> 長野営業所 | 026-229-8030(代) |
| <input type="checkbox"/> 筑波営業所 | 029-850-5185(代) | <input type="checkbox"/> 多摩営業所 | 042-348-5011(代) | <input type="checkbox"/> 松本営業所 | 0263-24-1125(代) |
| <input type="checkbox"/> 前橋営業所 | 027-280-4433(代) | <input type="checkbox"/> 川崎営業所 | 044-870-6377(代) | <input type="checkbox"/> 名古屋営業所 | 052-218-2735(代) |

URL : <http://www.sunmedix.co.jp> E-mail : mailbox@sunmedix.co.jp

AIR SALONPAS

Hisamitsu®

スポーツ時の
筋肉痛、筋肉疲労に



ジェット噴射で、冷却力アップ* 微香性で、においダウン

エアースロンパス®ジェット^α

筋肉痛・筋肉疲労に 第3類医薬品

*当社エアースロンパスEX比

◎この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。☎ 0120-133250
受付時間／9:00-17:50 (土日・祝日・会社休日を除く) www.airsalonpas.jp

